

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black



60

65

70

75

A 257  
5 4

小倉山

青樹榮

春日新語

五篇

止々卷

永壽寺是正化

櫻井房種画

延壽寺堂板



48-8084

幕臣青木弥太郎獄中ヨリ建白書ノ寫  
 私儀御嫌疑筋ニ依リ去ル 丑年六月二日評定所へ御差  
 出シ上御詮議中揚座敷へ被差遣追々嚴重ノ御糺問  
 中ニテ奉建言ハ恐多キ儀ニハ有之トモ切迫ノ儀故獄  
 中ヨリ左ニ奉建言候  
 獄中ニ於テハ天下ノ動靜ハ漏問ニシテ確認タルナシ  
 ト雖モ旗下士分ノ身ニ於テハ幽囚中タリトモ傍觀ニ  
 難堪方今東叡山へ御謹慎被為遊候譯柄モ相辨へ不  
 申候得共有名無實ノ錦旗東下ノ際官軍府下へ脅  
 迫ナシ西城御引渡ニモ可至下ノ事情如何様ノ御次第  
 カ不恐 日光様御大業ヲ被為建三百年來ノ御武威モ

三浦大五郎

一瞬ニ滅盡仕ルハ勿論 御家ノ御浮沈御一挙ニ有之  
東士ノ奮發無之歎ケ敷ノ極リ言語ニ難盡臣下ノ身  
トシテ安閑ト生命ヲ樂ンミ候場合ニ無之設令穩便ノ  
御所置有之候共素ヨリ無實ノ錦旗ヘ對シ有志ノ慄  
慨ヨリ非常ノ大變ニ可及モ難計左候時ハ囚獄ヘモ彼  
ヨリ蹂躪可致ハ必然ニテ其際ニ臨ミ闘死仕候ハ遺憾  
ノ至リニ付是迄數度ノ御責問ヲモ蒙リ候トモ無實  
ノ賊罪ニハ難伏候得共天下惑乱瓦解君臣上下ノ大義  
失ヒ候時節士道ノ名分ヲ大切ニ存候モ無効ニ依リ  
御嫌疑ノ通り恐入候トモ敢テ恥辱ニモ有之間敷何卒  
御家美事ノ御仕置ヲ以テ如何様ノ重料ニ被行候

トモ聊不苦儀ニ付至急御法被成下候様奉懇願候  
何分彼方ヨリ自儘ノ所置ヲ蒙リ候テハ實士道  
恥辱難忍窮士ノ心事 御隣察被成下非常ノ場  
合ニ不臨先令日ニモ御法奉待候決死仕候上ハ他  
念更ニ無之獄中筆墨無之ニ依リ血書ヲ以テ此  
段奉建言候以上

慶應四年

辰ノ三月廿二日

評定所三手御掛中

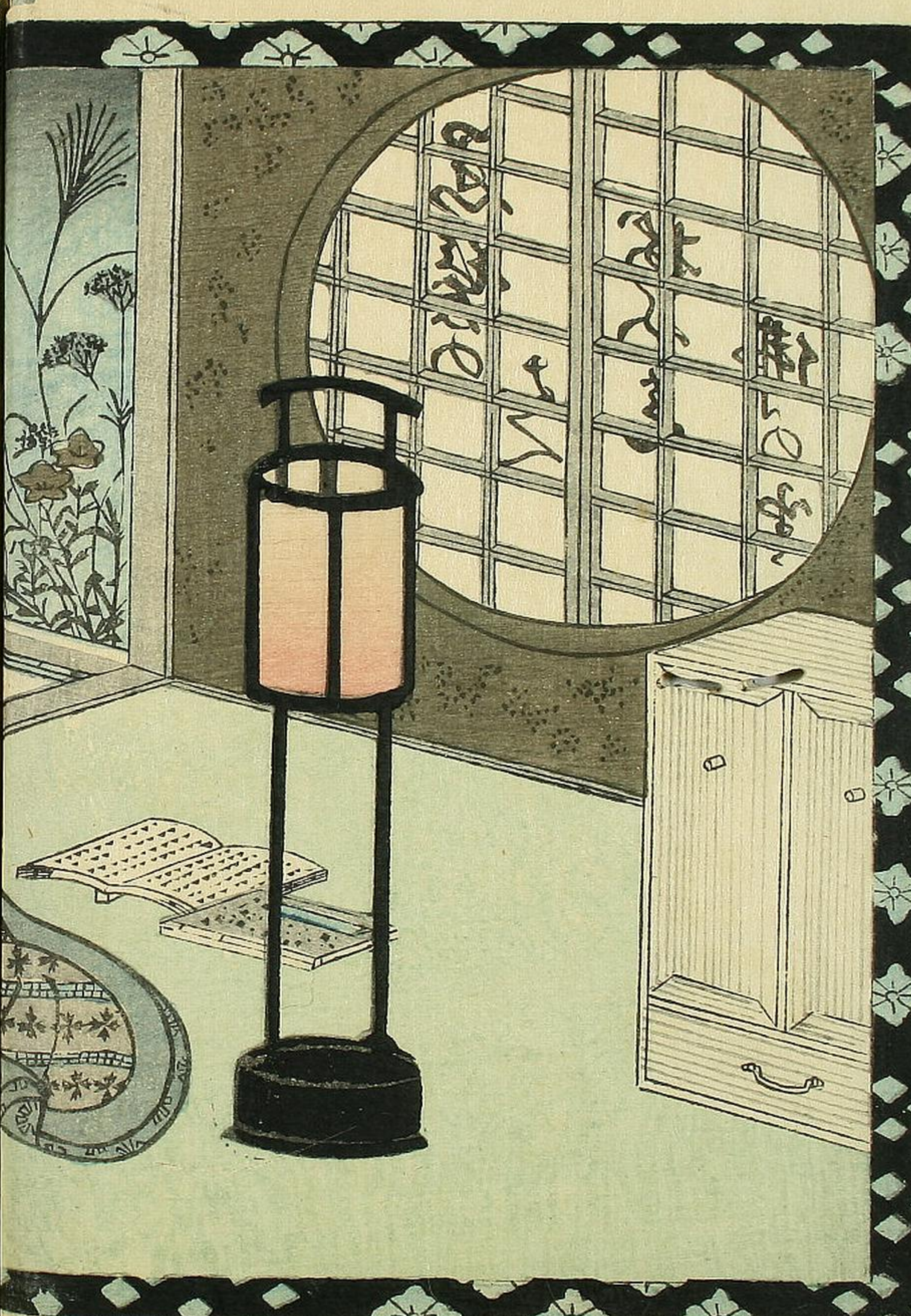
御留守居支配

青木彌太郎

信光五



迷ひて  
 妻おろ  
 法の道  
 入る





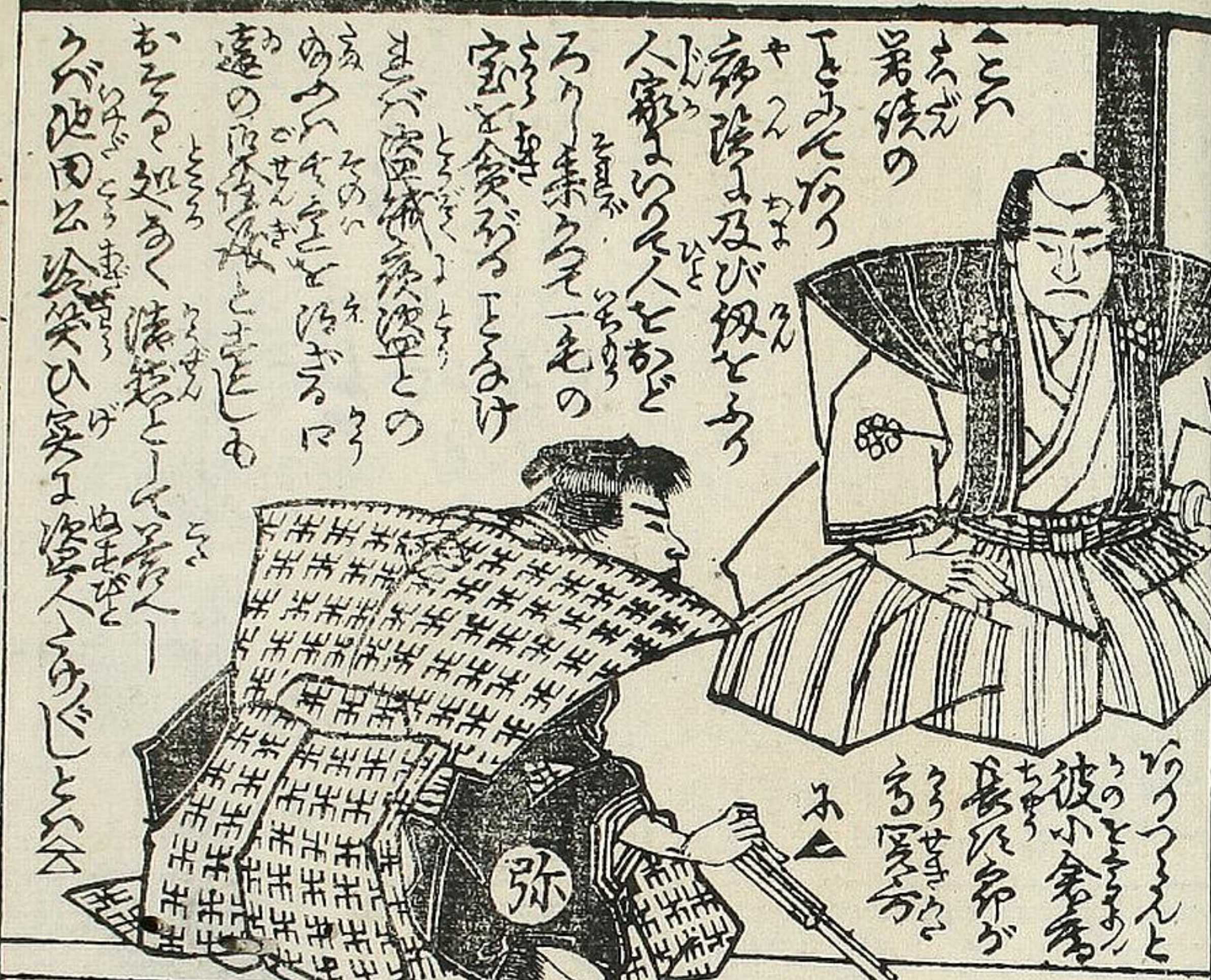
三浦元五  
金作少くはらま



池田  
はらま  
金作  
少く  
はらま



池田  
はらま  
金作  
少く  
はらま



三浦元五  
金作少くはらま  
池田  
はらま  
金作  
少く  
はらま

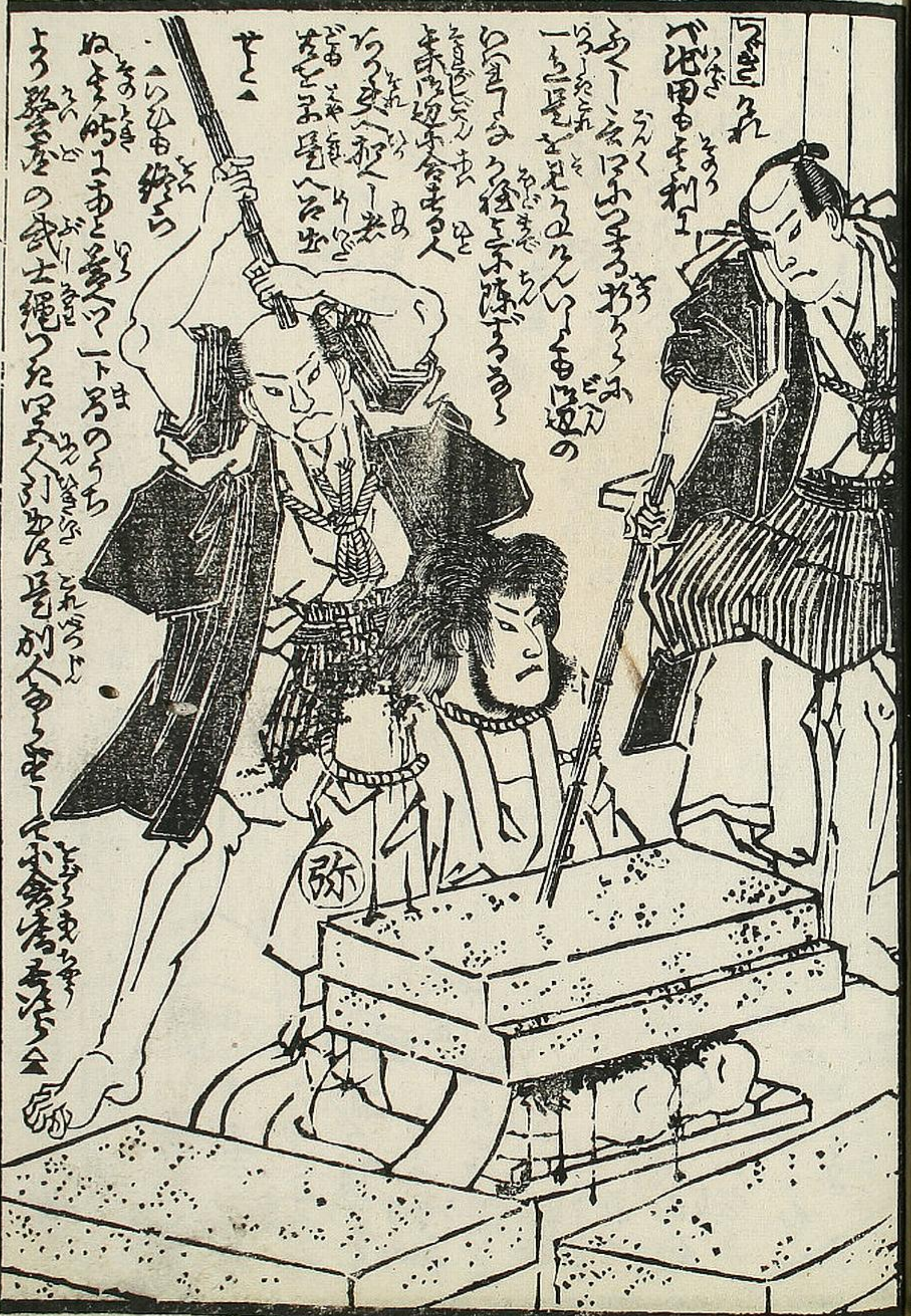


池田  
はらま  
金作  
少く  
はらま



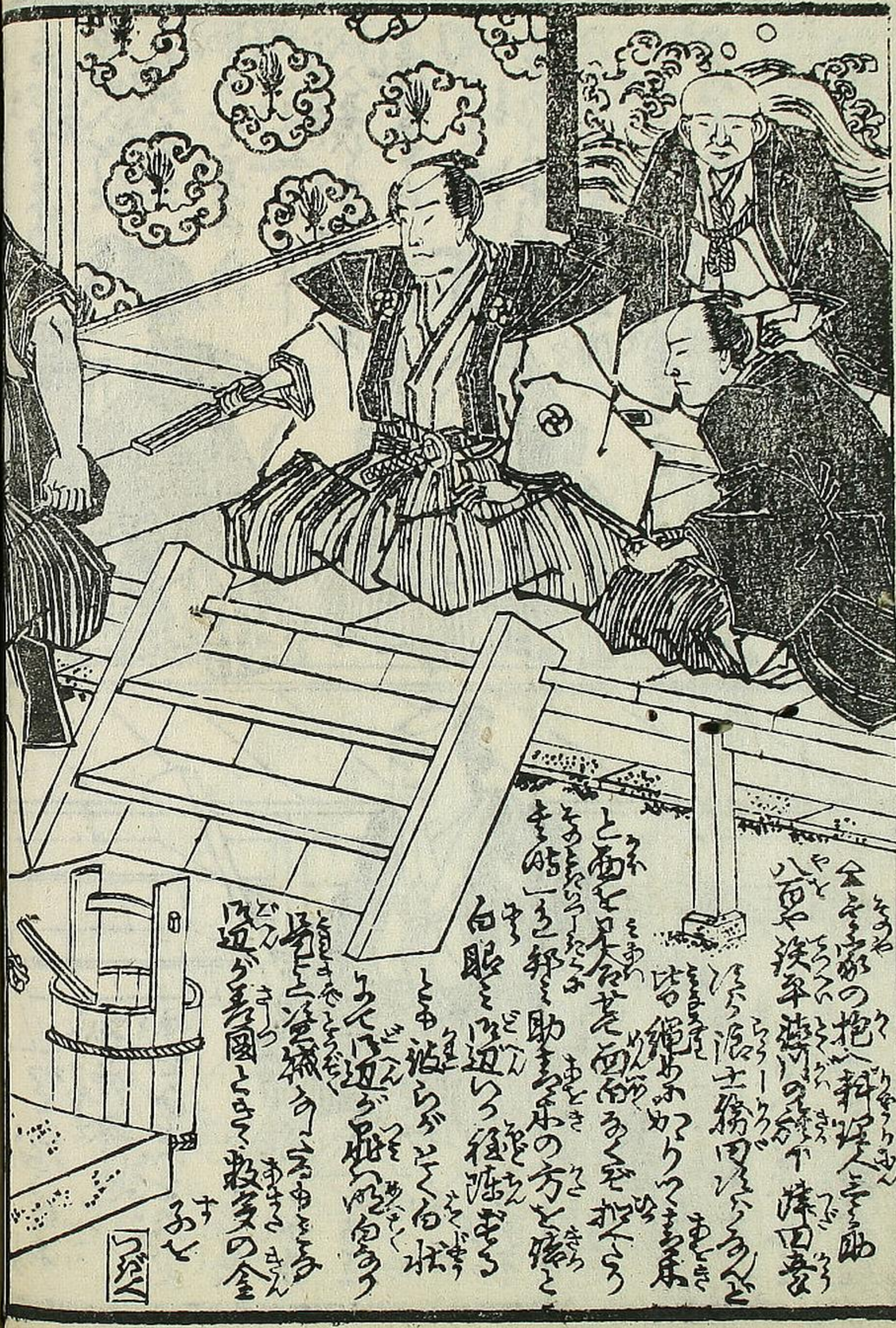
▲除きよりの色と姿が一見いふ所の全

六



此の如く  
 一に...  
 二に...  
 三に...  
 四に...  
 五に...  
 六に...  
 七に...  
 八に...  
 九に...  
 十に...

五月十五



此の如く  
 一に...  
 二に...  
 三に...  
 四に...  
 五に...  
 六に...  
 七に...  
 八に...  
 九に...  
 十に...

五月十五



いそいで開かすはと程殿と号  
 一之波平の如くは一は一白状  
 三好の如くは一は一白状



いそいで開かすはと程殿と号  
 三好の如くは一は一白状  
 飛人の伏せよ  
 飛人の伏せよ  
 飛人の伏せよ



いそいで開かすはと程殿と号  
 三好の如くは一は一白状  
 飛人の伏せよ  
 飛人の伏せよ  
 飛人の伏せよ



いそいで開かすはと程殿と号  
 三好の如くは一は一白状  
 飛人の伏せよ  
 飛人の伏せよ  
 飛人の伏せよ

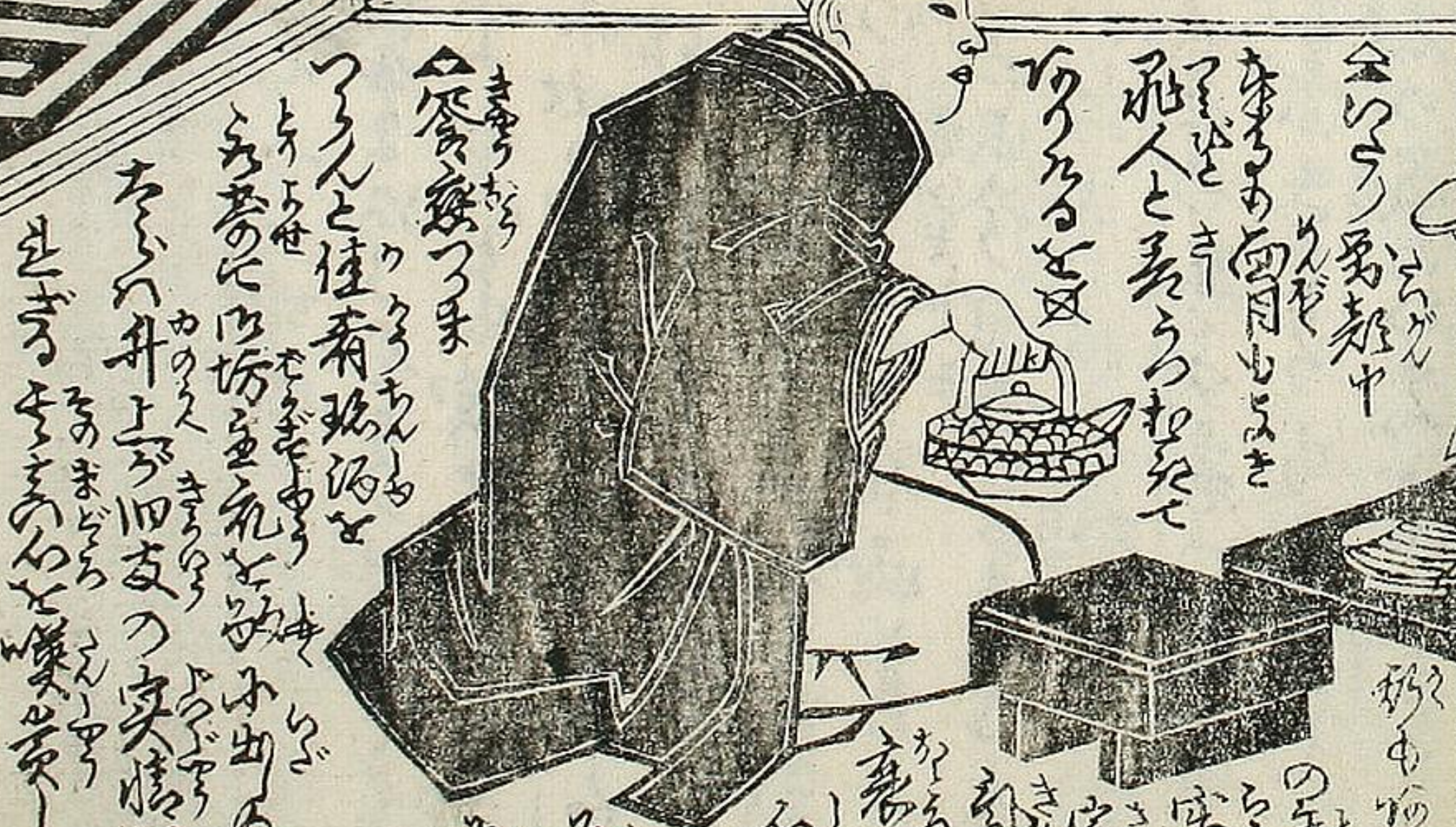


つぎに...  
 ...  
 ...



...  
 ...  
 ...

...  
 ...  
 ...



...  
 ...  
 ...

つぎ海三郎とて腹下り不火堂と傾け頗る熟酒と一盞と僅か一後生さの白濁も  
 舞う舞升と云ふ吟味と雲よ交ふ春風の撞風と振る浪舟自後生よ及びるて  
 本が盗賊の名義と云ふを少しも同いむにらあう吟味とてまよふも今う感  
 々まゝの所めをよとてつぐらゝめ長く微塵よりうんより此人よとてこれ  
 までの身の飛脚と中述命に死刑よあふとも我が生家のの屋をよ  
 やつと見据まゝいれ口外よまを吐うんとさゝたるとた白濁の  
 つまらげぐく細子の同らより様ありさへやうとさうやうとさうやうとさ  
 石をよ投ぬ一実よ弾女よ細乳もあく際もよふ乳と髪先の面  
 をせ月の眉月ま夜の乙姫う今揚つよ入りふ一冷情とさとの如  
 別人もろばま本が妻の雲霧のわら只今自海つまつると白濁  
 るぢくくをささうが舟よとまを借とてさうさう報一報ハケ来  
 まよよをむくさのさうがう流があるまひ火急の松子茶一急ゆらぶる  
 ねがひの報にさくやせと仁慈の云ふかきくろりゆあふらふらつと  
 とさげらゝあふらふら若のに改妻らひのまよふの後のわらと中述命と下  
 の巻へ

小倉山 青樹榮 昔日新話

泉童亭是正作 初編ヨリ追々出版

自縫物譚 豊貞

この徳川家の旗下の青木弥太郎小倉菴長吉唱枝  
 賑ひの春情小事寄景景強説の悪事青木の細石難  
 辛苦と記一繪入の草紙綴りこれ近世の珍書あり

初編ヨリ六十二編テ刊成  
 数人種員稿種彦作  
 系叔翁寿堂主人當今  
 日之勢才社主と後編と  
 出版まよふ難ゆゑ老より  
 月氏よとて松店う一屋  
 念入つてさか板を看書万  
 陸續に來と伏て奉る  
 明治十年 板元敦白

假名手本忠臣藏

露光作 芳虎画

延壽百人一首

中本一冊 玉蘭齋画

明治十年 板元敦白

地本錦繪問屋

日本橋通三丁目四番地

延壽堂・林九屋鉄次郎板元

